#### →表面から

その要望書を参考に、施設課において現地確認を行い、 緊急性が高く、必要であると判断したものについて、予算 要求しているところです。

学校施設の整備にあたっては、特別支援学校の建設をは じめ多くの課題があることから、緊急性の高いものなどに ついては今後も予算獲得に努めるとともに、当該年度予算 の範囲内で対応できるものについては、配当された予算を 効率的に活用し、少しでも多くの施設改修に取り組めるよ う努めてまいりたいと考えております。

③ 学校図書館にいろいろなジャンルの本があり、とても有意義に利用しています。これから、学校図書館がますます充実していくような計画あれば教えてください。

#### (回答 学務課)

特に計画はありませんが、現在も司書業務補助員を全校 に配置し、図書便りの発行や新刊本の紹介等、図書館の活 性化に向けて環境づくりを行っているところです。

④ 運動場や校地内通路の水はけ改善を早くお願いしたいのですが。

## (回答 施設課)

水はけの悪い運動場・校庭は、土壌改良や側溝整備など の改修を行っているところですが、限られた予算内では、 対象校全てについて対応ができていないという状況です。

飽田東小は、正門及び校舎棟周辺の水はけの悪さについて、また、龍田中は、水害後に土壌改良を行ったものの、 未だ校庭の一部の水はけが悪いという状況は認識しております。引き続き、さらなる予算の確保に努めてまいります。

⑤ 通学路の危険個所(空き家撤去や横断歩道への信号設置等)がなかなか改善されません。どのように進めていけばよいでしょうか。

## (回答 健康教育課)

空き家の撤去については、所有者の承諾や撤去費用が必要となることから、地域の声を所有者へ伝えて行くことが必要と思われます。なお、熊本市では空き家対策は建築指導課にて行っているところです。

横断歩道への信号機の設置は、警察が交通量や近くに横 断歩道、信号機が無いか、信号をつける事による交通の流 れなどを予側し、地域の要望などを考慮して決められてい ます。地域、自治会から要望をあげていくことが必要と思 われます。

⑥ 災害に対する備え、特に豪雨の際などの登下校について のガイドライン等はありますか。また、地震に備えた防空 頭巾の必要性については、どのようにお考えでしょうか。

# (回答 健康教育課)

各学校に「学校安全と危機管理〜危機管理〜ニュアル作成と手引き」を配布し、想定される危機管理(教育活動中及び自然災害・火災等)マニュアルが作成され、それに基

づき訓練が実施されています。

防災頭巾については、地震発生時、速やかに避難することで児童生徒の安全を確保することを優先し、身の回りに頭を保護するものがあれば使用するように指導しているところであり、現時点では配備する予定はありません。

# 5 学校・家庭・地域社会の連携の推進に関して(情報共有・協力・連携など)

① ともすると出たがらない中学生が、地域行事に積極的 に参加し関わっていく手立てはないものでしょうか。事 例等があれば教えてください。

## (回答 青少年育成課)

中学生に地域社会の一員としての誇りや地域への親しみを育むため、中学生と地域住民とのふれあい活動を推進し、市内の多くの中学校区(36 校区)にて、地域の夏祭りや地域の清掃などに中学生が参加する取り組みの支援を行っております。[中学生地域交流推進事業経費]

また、子どもたちの地域交流の機会の一つとして、地域が主体となって開催する冒険遊び場(プレイパーク)活動(市内 21 ヶ所)を支援しております。[プレイパーク関係経費]

② 学校と家庭との連携はとても大切と思います。よい取り組み事例等がありましたら教えてください。

## (回答 学務課・指導課)

一新小校区等、一部の地域では、PTA の OB の方を中心とした地域住民による学校応援団が結成されて、幅広い分野で学校のサポートをされています。

また学習面では、例えば、定期試験前の計画に一言コメントを書いてあげたり、学級通信の返信に家庭学習の状況を書いたりするなど、学校・家庭の情報共有が大切だと考えます。

学校便りや学級通信で学校の様子を紹介していく中で、便りや通信に家庭からの返信欄等を設けて学校と家庭が連絡を取り合い連携していくことが大切だと思います。

③ 個人情報保護のため、連絡網等が作りにくく情報共有・協力連携がとりにくくなり不便になっています。何かよいアドバイスをいただけないでしょうか

## (回答 指導課)

多くの学校において、個人情報保護の観点から、連絡 網は作られていないようです。

企業と提携した無料メールにより、一方通行の情報提供を行っている学校がほとんどです。これを用い、学校・学年・クラス・部活動等と対象をしぼり送信することで、必要な情報を継続的に共有を行うことが、連携の推進に繋がるものと思います。 →次号へ続く